

# 平成31年度 学校自己評価システムシート ( 県立熊谷工業高等学校 )

目指す学校像	地域の信頼と期待に応える魅力ある工業高校
--------	----------------------

重点目標	1 確かな学力と専門的な知識・技術を身に付けたスペシャリストを育成する。 2 一人一人の希望を実現する進路指導を推進する。 3 心豊かでたくましく、規律ある態度を育成する。 4 積極的な地域連携により、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

学校自己評価							
年度目標			31年度評価(2月1日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<b>【現状】</b> ・生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる。アンケート結果より85.3%の生徒が授業は分かり易いと感じている。 ・外部講師の活用や資格取得等により生徒の学習意欲が高まっている。 ・放課後や長期休業中の計画的な補習の実施により、生徒の学力が定着しつつある。 <b>【課題】</b> ・就職・進学後も学力・技術力不足とならないための学習指導を実施する。 ・学力向上のための授業改善を行い、学力・技術力の定着を図る必要がある。	・基礎学力の定着と学力の向上 ・専門知識と技術の確実な習得	①生徒・保護者による学校満足度調査結果を受けて授業改善を図り、基礎学力を定着させる。 ②年2回以上研究授業を実施し、授業力の向上に取り組む。 ③学びの基礎診断テストを導入する。	①アンケートの授業に関する項目の肯定的な回答85%以上 ・成績優良者の前年比増と成績不振科目数の前年比減 ②年2回以上の研究授業を実施したか ③新たな学力診断テストを導入したか	・進路を中心とした学習目標を持たせることで学力の向上に繋げることができた。 ①授業が分かり易いと答えた生徒は、84.4%で前年比0.9ポイント減少。 2学期の優良者の成績平均8.6で前年度と同じ。成績不振者の数は前年比で27%増。 ②年4回の研究授業を実施した。 ③新たな学力診断テストは導入しなかった。	B	課題：生徒に客観的な自己の学力を把握させ、学力を向上させる必要がある。 改善策：研究授業等を通じて授業改善を行う。 学力診断テストを再検討する。
2	<b>【現状】</b> ・89.5%の生徒が進路指導行事によって進路に対する意識を高めている。 1学年の段階から3年間を見通した進路指導計画のもと充実した進路指導を実施している。 <b>【課題】</b> ・第1希望の進路先に就職内定させる。 ・広い進路選択肢の魅力を積極的にPRする必要がある。	・希望を実現する進路指導の推進	①進路指導行事の見直し、改善及び新規求人開拓により第1希望の就職内定率を向上させる。 ②生徒の希望状況を考慮した企業・大学見学を実施する。大学進学希望者には入試形態に合わせた進路指導を実施する。	①生徒の進路意識の向上と第1希望の企業への就職内定率90%以上 ② ・求人件数及び就職内定率の前年度比増 ・指定校推薦者数及び進学決定率の前年度比増	・生徒の希望に応じた進路を実現することができた。 ①第1希望の企業への就職内定率は86%であった。進路指導部、学年を中心に進路行事・ガイダンスを実施し進路意識を向上させた。進路閲覧室を有効に活用し、情報提供や相談を充実させた。 ②求人数は3,717件、前年比6%増。就職内定率100%達成(1月)。公務員5名、大学24名、専門学校・高技専等40名前年度比5%進学者増。	A	課題：各段階(学年)での進路指導を工夫し、早めの意識付けを行う。 就職内定率100%を維持する。 改善策：インターンシップを活用し、その指導を通じて進路意識を向上させる。
3	<b>【現状】</b> ・部活動を中心に規律ある態度を育成し、学校全体は落ち着いている。 <b>【課題】</b> ・協調性や規律ある態度を更に伸ばす必要がある。 遅刻者の増加を防止する。 挨拶を徹底する。 ・自転車による交通事故が多い。 ・自動二輪等の事故防止。	・時間や規律を守る生徒の育成	①挨拶運動、部活動や学校行事等をおして、協調性や規律ある態度を養う。 ②全教職員で継続的なチャイム着席と多遅刻者の指導に取り組む。 ③ ・自転車の乗車と歩行者のマナーアップについての指導を生徒指導部・学年を中心に1学期中に実施する。 ・生徒指導部を中心に免許取得者への安全指導と講習会参加を徹底する。	①生徒の挨拶の状況、学校満足度、部活動参加率の実績の前年度比増 ②遅刻者数の減少 ③ ・登下校時の自転車の並列運転や傘差し運転の状況 ・1学期中に講習会を実施したか ・自転車、自動二輪等の事故件数	・時間や規律を守る生徒の育成については概ね達成できたが、一部の生徒は不十分である。 ①学校満足度調査で87.5%の生徒が進んで挨拶を心がけている。部活動に積極的に取り組んだ生徒は、前年度とほぼ同じ79.9%(昨年79.7%)である。 ②遅刻者数は1学期より増加。服装・頭髪等校則については、95.2%(昨年96.7%)の生徒が自覚を持って守っている。 ③1年生を対象に1学期に講習会を実施した。自転車の乗り方に関する苦情あり。 2学期に自転車の事故件数が増加。自動二輪等の事故は無し。雨天時の雨カッパ着用は定着している。	B	課題：2学期に自転車事故や遅刻が増加傾向にある。これらに対しての具体的な指導が必要である。 改善策：1学期中に自転車の安全運転に関する講習会を実施する。生徒指導部、学年による多遅刻者指導を実施する。
4	<b>【現状】</b> ・1年生でインターンシップを実施し地元企業との連携に取り組んでいる。 ・出前授業・開放講座・学校見学会等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。 <b>【課題】</b> ・中学校へ出前授業や高大連携事業の内容を見直し充実させる。 ・高校説明会や体験授業等の実施計画を改善する。 ・学校情報の発信を工夫する。学校生活・地域行事への参加を通じて、豊かな人間性をはぐくむ必要がある。	・地域の力を活用した、開かれた学校づくり	①地元企業と連携したインターンシップを継続し推進する。 ②小・中学生やその保護者のニーズに沿った出前授業、体験入学、学校見学、コンテスト等を実施する。 ③大学、専門学校、企業との連携により生徒の学習意欲や進路選択能力を高める。 ④学期に1回以上の広報紙を複数の学科で発行する。	①インターンシップ協力企業数と実施状況 ② ・体験入学参加者数、学校見学者数の前年比増、出前授業実施後の評価 ・全学科の志願倍率が1倍以上になったか ③大学、専門学校、企業との連携状況 ④学期に1回以上の広報紙を複数の学科で発行したか	・インターンシップをはじめとする地域連携は、本校の教育力向上に繋がっている。 ①インターンシップ協力企業数は114社で前年度とほぼ同じ。進路意識の向上に繋がっている。 ②体験入学は271名(前年度291名)参加。見学会は318名(前年度320名)参加。志願倍率は、12月調査で建築科と情報技術科以外が1倍に満たなかった。 ③授業や部活動、PTA活動に於いて積極的に外部と連携し、教育力を向上させた。 ④複数の学科で広報紙を発行することができなかった。	A	課題：学校の情報を積極的に発信するとともに、地域連携を強化する必要がある。 改善策：他学科の取組を参考に全学科で出前授業等を実施する。広報紙の発行やHP等の情報発信を更に向上させる。地元のイベント等への参加により、小中学生を含む地域住民への広報活動を実施する。

学校関係者評価	
実施日	令和2年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・各々が誇りと自信をもって生徒を育成している。満足度調査から実習や資格取得に真剣に取り組んでいることが読み取れる。真剣に取り組む姿勢も学力と捉え、更に生徒を伸ばしてほしい。 ・英・数・国について、在学中にどの程度学力が伸びたかを知ることは重要である。 ・資格検定に対して、きめ細かい指導を受け合格することができた。在学中に国家資格を取得したことは励みになっている。 ・ものづくりコンテストで全学科が関東大会に出場し、県内の工業高校で一番良い結果となったことは大変素晴らしい。教員の負担に配慮しつつ、今後もさらに高い目標で頑張してほしい。	
・今後も就職内定率100%を堅持してほしい。今年度の進路に関する分析結果を次年度に生かしてほしい。 ・2年時のコース選択の時期をもう少し後にできないか検討してほしい。	
・PTAの挨拶運動での印象はとても良かった。多くの生徒がしっかり挨拶をして登校している様子がうかがえた。 ・雨天時の登校で傘さし運転はほとんどないようだが、イヤホンの禁止も含め指導は継続してほしい。自転車の事故防止について効果的な方策を検討してほしい。 ・満足度調査で、生徒指導に対して保護者のほとんどのが厳しい指導に肯定的である。このことも踏まえ、頭髪等の指導では、統一的な指導をしてほしい。	
・ホームページは高校選びの重要な要素である。今後も内容を充実してほしい。 ・出前授業で高校の様子がよくわかる。出前授業は工業高校の学習内容を知る良い機会となっている。地元の中学校を中心に今後も継続してほしい。 ・定期的に配布される広報誌をととても楽しみにしている。今後も継続して発行してほしい。できれば近隣の中学校にも配布してほしい。	